

観音寺市 ため池ハザードマップ

このマップは、市内のため池が地震等により決壊した場合を想定し、はん濫水の浸水範囲・到達時間などの情報や避難方法を市民のみなさんに提供することで、災害時の自主的な避難に役立てていただくことを目的として作成しています。

マップ作成の想定条件

- ① 地震等によりため池が決壊したという状況です。
- ② ため池決壊時の貯水位は満水位です。
- ③ 地面の状況は、降雨がなく平常時の状態です。
- ④ 河川の状況は、平常時の流量が流れている状態です。

ハザードマップに関するお問い合わせ先

観音寺市役所

○経済部農林水産課 TEL0875-23-3932
○総務部危機管理課 TEL0875-23-3940

ハザードマップは市のホームページでも確認できます。

<http://www.city.kanonji.kagawa.jp/>



令和5年8月作成

ため池決壊の起り方とその被害

① 地震や大雨で堤防が破損する。

- 地震同様に、大雨の際にも堤防が破損するおそれがあります。

② 破損した堤防が、貯水に耐え切れず決壊



③ ため池決壊による被害

- 大量の水や土砂が濁流となって押し寄せます。
- 建物や車は押し流されます。
- 道路や住宅地、田畠は土砂に埋まります。



ため池にこんな現象がみられた場合は、決壊のおそれがあります。すぐ避難しましょう。

- 堤防に亀裂がみられる。
- 張りブロックが壊れている。
- 堤防から漏水がみられる。

ため池の管理について

- 定期的に見回り点検を行うとともに堤防の草刈りや池干しを行い、異常箇所の早期発見に努めています。
- 洪水吐の流れを阻害するゴミや草等は、すぐに撤去しています。
- 定期的に、取水施設の動作確認を行っています。

正常時は、ため池の利用者が上記のようなため池の管理を行っています。

ため池決壊と同時に発生するおそれがある災害



ため池決壊時の「自分の家族」や「自治会・自主防災組織」の連絡先を記入しましょう。

家族の緊急連絡先

家族の避難先や集合場所

自治会・自主防災組織の連絡先

緊急時連絡先 (0875)

観音寺市農林水産課	23-3932
観音寺市危機管理課	23-3940

関係連絡先 (0875)

観音寺警察署	25-0110
三觀広域消防本部 南消防署	24-2119
香川県西讃土地改良事務所	25-4086

わが家の防災会議

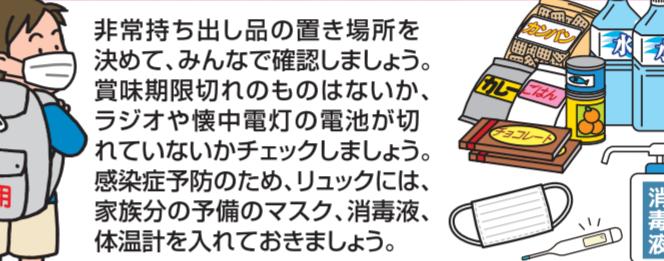
被害を小さくするには、日頃の備えが大切です。あなたの家の備えは大丈夫ですか？災害に巻き込まれたら、どうすればいいか。家族防災会議を開いて、話し合ってみましょう。

家族との連絡について

家族が離ればなれになった時のために、避難場所を決めておきましょう。災害用伝言タイヤルなど、連絡方法も決めておきましょう。できれば、市のホームページから「避難所利用者登録票」入手して、事前に、同居の要配慮者の分も含めて記入して、それぞれ、身に着けておきましょう。



非常持ち出し品や備蓄品について



防災訓練への参加について

消火器で火を消したり、応急手当を習っていると、いざという時にあわなくてすみます。災害時は、けがをしても、多数のけが人がいたり、病院も被害を受けているので、満足な手当をしてもらえないかもしれません。最近は、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した救急講習会や避難訓練、避難所開設訓練も開かれています。これらの訓練に参加して、応急手当の知識を身につけて、いざという時役立つようにしておくことが必要です。市役所や消防署などで聞いてみましょう。



家族の役割分担について

災害が起きた時の家族一人ひとりの役割を決めておきましょう。火を消す人、ドアを開ける人、お年寄りを守る人、非常持ち出し品を管理する人、また、「個別計画」で近所の要配慮者を安全な場所まで連れて逃げる人…。いざという時、どんな役割が必要か考えてみましょう。



家の危険なところのチェックについて

家中で危険なところはないか注意しましょう。家具は地震で倒れないように、固定したり、置き方を工夫しませう。階段や廊下、入り口に物を置かないようにしませう。現在、家具類の固定化のやり方が分からない方たちのために、香川県が支援事業を行っています。詳しくは、市役所危機管理課にお問い合わせください。



自分のまちの防災地図の作成について

避難場所まで、実際に歩いてどのくらいの距離か、途中に倒れやすいブロックペイといった危険なところはないか、などをチェックしてみましょう。避難場所まで遠い場合で、避難経路の途中に災害から安全な自治会等の集会所がある場合は、事前に、自治会に一時避難場所としての活用協力を求めておきましょう。



浸水の状況に応じた避難をしよう

命を守るために行動

浸水の状況によって、避難方法は異なります。状況に応じて避難することが重要です。裏面の地図①、②を確認し、いざというときにどのように行動するか、家族や地域で確認しましょう。

浸水の深さを確認

危険性を確認

どこへ
どこへ
どこへ

地震発生の数日後までは警戒が必要です！

3m以上の浸水

2階以上が浸水

0.5~3mまでの浸水

床上浸水
1階部分が浸水

0.5m未満の浸水

床下浸水
大人のひざ下程度

木造家屋倒壊のおそれのある区域内

自宅が木造

歩行困難区域内

自宅が鉄筋コンクリート造
時間があれば

浸水想定区域内

自宅にとどまる

浸水しない場所
(避難所、道路、高台など)

安全な場所へ移動する

裏面の地図①、②に記載されている避難所か一時避難目標地点に避難

自宅の2階危険の近くの高い建物

自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる

自宅にとどまる

むやみな移動はかえって危険

動きやすい服装

徒歩で避難

お年寄りなどの避難に協力を

すみやかに2階に上がる

近所のお年寄りと一緒に

お年寄りと一緒に

お年寄りと一緒に